

# 「地域の安全・安心は地域の力で」

～法吉地区の災害時における地域での助け合い～

モデル公民館(H19～H21)

松江市法吉公民館

**【取組の概要】** 公民館が核となり地域の関係団体が連携して、「要援護者」を「おねがい会員」、「支援者」を「まかせて会員」として、地域住民がお互いに助け合う仕組みを作っている。住民の高い防災意識や地域の安心安全を地域で守る取組が注目を浴びている。

## 1 本事業に取り組みうと思った理由

松江市地域福祉計画・地域福祉活動計画「まつえ福祉未来21プラン」を具体化するために、「地域福祉ステーション事業」のモデル地区指定を受け、平成16年秋から地区と行政・関係機関の協働で地域課題の解決に取り組んだ。

当地は過去に豪雨による浸水被害を幾度と経験しているのに加え、取組を開始した平成16年秋頃には、全国各地で自然災害が発生した。災害での被害者は高齢者、障がいのある方などいわゆる「災害弱者」と呼ばれる人たちに集中していることが分かった。そこで地区社協と公民館を中心に地域住民が一体となり、「災害時における要援護者の地域支援体制づくり」に取り組むことにした。

## 2 公民館としての仕掛け

災害時における要援護者の具体的な仕組みづくりを行うため、公民館・地区社協を中心に地域の関係者の代表（住民・各種団体）や行政機関等が集まり、ワーキング会議を組織し検討を行った。



検討と並行して、被災地への研修視察や「個人情報保護法」の勉強会も行った。

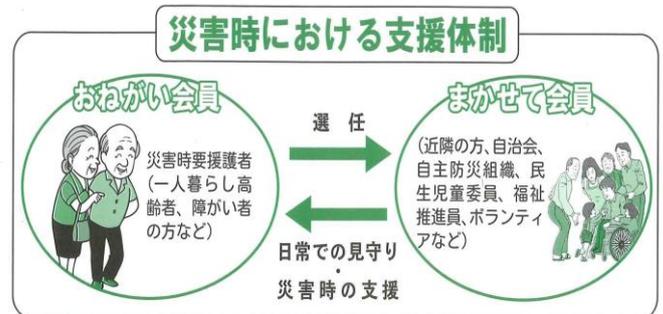
できた仕組みを地域の住民が理解するために制度の趣旨、地域の助け合いの大切さを会合で説明したり、広報でお知らせしたりした。

おねがい会員の登録への呼びかけは書面を郵送するのではなく関係者が集まってリストアップし、一人ひとりに事業の説明を行い登録を呼びかけた。まかせて会員も同じように地域でお願いして登録してもらう。

このように立ち上げから登録、事業の推進まで行政主導ではなく住民主体での取組となっている。

1年半という長い時間を要したが、住民が理解し自分の事として納得したうえで事業を推進することが大切である。

## 3 事業の成果（地域の姿容・公民館の姿容）



### 立ち上げの成果

- (1) 住民らが専門職と協働で災害時要援護者の見守りシステムを構築した。
- (2) 住民が支援者となり、地域の支えあいの体制がつけられ、取組の促進につながった。
- (3) モデル事業をきっかけとして地域住民が防災に関する自主的な活動を始めた。自主防災組織が3から13に増えた。

### 地域の姿容

- (1) 災害発生直後には、地域での支え合いが大切である事を学び、制度がスタートした平成18年には、同年7月の豪雨災害で、いち早く安否確認を行い制度が活かされた。

- (2) 日常の見守り活動により、地域と要援護者との間で、日頃から確認し合える関係づくりが出来ている。
- (3) 向こう三軒両隣の関係が希薄になりつつある中で支え合いにより少しずつ復活してきた。
- (4) 「地域の安全安心は地域の力で守ろう」という機運が高まった。

**公民館の変容**

- (1) 公民館と各種団体・住民との連携がより密接になった。
- (2) 公民館がまちづくりの拠点であることが住民に浸透してきた。
- (3) 県内外からの視察や出向いての説明が多くなり、松江市民館・法吉公民館の存在価値を高めることができた。



**4 公民館として「地域力」を醸成するために大切にしてきたこと**

この種の事業は立ち上げてからの定着化が大切な課題である。災害はいつ発生するか予測出来ないだけに、「いざ」といった時に機能させることが肝要である。それには、平素から「まかせて会員」等関係者の意識・関心を維持していくために、次にあげるようないろいろな工夫・施策を実施してきた。

**(1) 平常時の見守り活動**



**(2) まかせて会員研修会**



**(3) 地区防災訓練**



**(4) 住民への啓発活動**



これらを地道に継続することが重要と考え実施している。

この事業が目指すところは「法吉地区の皆さんが住み慣れた地域であり、安全で安心して暮らしていけるまちづくり」で、地域住民の協力により順調に進展している。

今後とも「地域の安全安心は地域の力で守ろう」を合言葉に頑張っていこうと考えている。